

■三浦周行 歴史学者。国史学が近代史学として開花した時期に、基礎となる卓越した業績をあげた。

みうらひろゆき
廃藩置県・・・1871＝ 出雲国島根郡内中原町(島根県松江市)で、松江藩士三浦正祐の長男に生まれる。

明治6年政変 1873＝ 2歳：

・・・1880＝ 9歳：
明治14年政変 1881＝10歳：

島根県尋常中学校、

私立東京英和学校を経て、

帝国憲法発布 1889＝18歳：
_帝国大学文科大学選科に入学、

郡司千島探検 1893＝22歳：_修了。

日清戦争始・ 1894＝23歳：

日清戦争終・ 1895＝24歳：_史料編纂助員、

この間、_「大日本史料」第4編鎌倉時代の編纂に従事、

子規句歌革新 1898＝27歳：

田中正造直訴 1901＝30歳：_東京帝国大学法科大学より法制類聚編纂を嘱託され、また国学院大学に日本法制史を講じ、以後東京帝国大学法科大学授業担当、同文科大学講師を嘱託される。

教科書疑獄・ 1902＝31歳：_「大日本史料」その1が刊行され、第4編鎌倉時代は各編に先んじ早く完了した。

日露戦争終・ 1905＝34歳：_史料編纂官となり、

韓国反日暴動 1907＝36歳：*「鎌倉時代史」を刊行。京都帝国大学文科大学に史学科が開設され国史学講座がおかれ、嘱託される。
ついで講師となり、

伊藤博文暗殺 1909＝38歳：*教授に任じ、文学博士の学位を受けた。

明治天皇没・ 1912＝41歳： 特に史料蒐集に努め、文書・記録を調査謄写するとともに古文書原本を蒐集し、大正末年に2万通に及ぶといわれる。史料に広く精通し、さらに新史料を探求して新史実の究明にめざましい業績をあげた。

21ヶ条要求・ 1915＝44歳：以降、京都帝国大学法科大学で法制史を講じた。

民本主義・・・ 1916＝45歳：「歴史と人物」、その史論は該博にして鋭利、精緻にして的確と評せられ、研究・教育に精励格勤倦むことなく、学生指導もきわめて厳格であった。

ベルサイユ条約・ 1919＝48歳：教授内田銀蔵死去後は、都市・港湾など経済史関係も講義、*「法制史の研究」で帝国学士院恩賜賞を受賞、

大暴落・・・ 1920＝49歳：「国史上の社会問題」、

原敬首相暗殺 1921＝50歳：

水平社結成・ 1922＝51歳：「日本史の研究」。欧米へ出張、

治安維持法・ 1925＝54歳：「続法制史の研究」、

この間、臨時御歴代史実考査委員を勤め、また宮中の講書始に進講した。

海軍軍縮条約 1930＝59歳：「日本史の研究」第2輯。中国広東の中山・嶺南の兩大学で明治維新史を講じ、

満州事変・・・ 1931＝60歳：北京その他の大学で明治維新史・明治法制史などを講演。*京都帝国大学を退官、ついで同大学名誉教授の称号をうけたが、胃を病んで没した。長く編纂監修し、第1・2巻の大部分はみづから執筆した「堺市史」8巻がこの年完結、市史編纂の一典型と評価された。